



途中より
物を落さハ其身の
疎漏より起ると雖も
拾て後ハさあて過も
思ハバ欲心の生れるハ人情の
常也又拾ひ主の志にあり
幸ハ幸なり爰に賞す
べきこ大坂址堀江裏通
二丁目日吉佐助の娘春父ハ盲目とあり母ハ髪結を
渡せしけり三月十二日の朝縮荷詰の帰り路隣家の
門口に落たる物を拾ひ見れば新紙幣五百圓と百五十圓の証券
かきハ會議所ハ持行き官出んとせし折柄落し主防州馬島なる
酒井辰藏尋ひ来り相應謝礼ハ致すべし下より渡し具とて誤しられ
共聞入りし語を御上へ出づの事ハ供々訴へ出られ御法の通り紙幣の高を
折半し二百五十圓と春に下し賜りぬあまの情の無き人と思ひ居るに豈計
らんや御法ハ御法私情ハ私情さや難儀あらんや又其半分を元の主の
返しられ大に取ひ且感じ茶船一艘と買ひ永く生計の爲に贈り
と双方共満足を知る者と云ふらん春親子を許し者共古を巻て
感や一ノや我よりき者にハいと珍らしく世人とれを馳走と成る